

町田生きもの共生プラン

～生物多様性 はじめの一步～

2021年度進捗報告書

「町田生きもの共生プラン」は、2015年に策定されました。これは、生物多様性基本法（2008年制定）で、「生物多様性地域戦略」の策定が地方自治体の努力義務とされたことを受け、町田市が行うべき施策を取りまとめたものです。また、2012年に策定された第二次町田環境マスタープランの基本目標2「自然環境と歴史的文化的環境の保全」を実現する取り組みとしての位置づけも持っています。

本報告書では、町田生きもの共生プランの4つの基本方針とそれに沿った目標に対する成果と課題・対策をまとめました。また、4つの目標ごとに掲げる施策を横断的かつ効果的に推進するための重点プロジェクトの進捗状況についても報告します。

なお、本プランの施策の目標最終年度は、2021年度です。



町田生きもの共生プランの概要

■ 将来像（理念）

『源流から里山、街が織りなす いのち輝く町田』

■ 計画期間

本計画の対象期間は2015年から2021年までの7年間となります。

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
						報告対象

■ 基本方針

- 1 意識高揚 『理解する』
- 2 人材育成 『育つ』
- 3 協働・連携 『つながる』
- 4 持続可能な利用 『守る・活用する』

■ 目標（上掲の基本方針ごとに4つの目標を設けています。）

- 1 町田市の生きものや自然に関心を持ち、町田市の魅力の一つととらえ、生きものや自然に親しみと愛着を持つ市民・子ども・事業者を増やします。
- 2 生物多様性の維持・向上に関わる知識を持って保全を行う人材を育てます。
- 3 多様な主体の協働・連携により、町田市の生きものやその生育・生息環境を守ります。
- 4 町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築します。

※各目標にひもづいて施策が定められ、取り組みを進めています。（巻末実施状況一覧参照）

■ 重点プロジェクト（上掲4つの目標を横断的に捉えて取り組むプロジェクトです。）

- ① 生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実
- ② 多様な主体の交流の場づくり
- ③ 里山の生物資源利用促進の取り組みの実施
- ④ 市民協働による生きもの調査の実施
- ⑤ ビオトープ作庭イベントの開催

基本方針 1 意識高揚 ～理解する～

＜目標＞ 町田市の生きものや自然に関心を持ち、町田市の魅力の一つととらえ、生きものや自然に親しみと愛着を持つ市民・子ども・事業者を増やします。

【施策】

1-1 生物多様性に関する意識啓発

- ① 市民向けの情報発信
- ② 事業者向けの情報発信
- ③ 生物多様性に関する資料・情報の収集・発信の仕組みづくり
- ④ 各種イベントの開催

1-2 学びの場づくり

- ① 子ども向けプログラムの実施
- ② 学校における取り組みの推進
- ③ 地域における取り組みの推進

2021年度の成果

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を縮小した企画もあった一方で、感染症対策をとり、里山の資源を使ったクラフトづくり体験やザリガニ釣りのイベントを実施することができました。また、屋内でも楽しめる企画を検討し、子供向け動画の作成と動画を活用した普及啓発を行いました。
- ・市内全域を対象に、まちピカ町田くん（スマートフォン写真通報アプリ）を使った市民協働による生きもの調査を行い、投稿された生きものの写真を市ホームページで紹介しました。
- ・投稿写真を掲載した冊子「まちだ生きものアルバム」を作成し、市ホームページで閲覧していただけるようにしました。
- ・生物多様性情報拠点として、市内5カ所に設置した、「生きもの情報コーナー」を活用して普及啓発資料を置くことで、多くの方に情報を発信することができました。

※ 施策実施状況一覧12ページ～17ページを参照

2022年度に向けた課題と対策

- ・新型コロナウイルス感染症対策の影響がある中でも、引き続き生きものや自然にふれあいながら学習する機会の提供が必要です。
- ・市民に町田市の生きものに魅力を感じていただけるような取り組みを行います。

基本方針 2 人材育成 ～育つ～

＜目標＞ 生物多様性の維持・向上に関わる知識を持って保全を行う人材を育てます。

【施策】

2-1 地域における人材の発掘と育成

- ① 市民活動の担い手の発掘と育成
- ② 農業の担い手育成

2021年度の成果

- ・市民協働による生きもの調査や環境講座を通して、生物多様性の維持・向上に関わる知識を提供しました。
- ・町田生きもの共生フォーラムでは、「市民活動と生物多様性」の講演と「市内活動団体の活動紹介」による情報交換を実施しました。情報交換で、団体の方の考えなどを聞くことができ、今後の取り組みへの参考とすることができました。
- ・市ホームページの市内活動団体の紹介ページをご覧になった方から活動参加への問い合わせをいただきました。また、市ホームページ掲載の依頼があった2団体の情報を新たに掲載し、市内活動団体の紹介について充実させることができました。

※ [施策実施状況一覧18ページ](#)を参照

2022年度に向けた課題と対策

- ・市内には様々な自然環境があり、生物多様性保全のために必要な知識の範囲や活動内容も様々ですので、人材育成とともに活動に踏み出せる場を整えていくことが必要です。
- ・引き続き、多くの方に環境活動団体の活動に興味を持っていただけるよう、生物多様性保全に関わる活動についての情報の発信に取り組めます。

基本方針 3 協働・連携 ～つながる～

＜目標＞ 多様な主体の協働・連携により、町田市の生きものやその生育・生息環境を守ります。

【施策】

3-1 市民と連携した取り組みの推進

- ① 市民協働の取り組みの推進
- ② 市民活動の支援
- ③ 市民との協働・連携の仕組みづくり

3-2 大学や事業者との連携の仕組みづくり

- ① 大学や事業者と連携した取り組みの推進

2021年度の成果

- ・町田生きもの共生フォーラムを開催し、市内活動団体の情報交換の場を設定して、団体間の情報共有を行うことができました。
- ・市内全域を対象に、まちピカ町田くん（スマートフォン写真通報アプリ）を使った市民協働の生きもの調査を行い、1,496件の投稿をいただきました。
- 薬師池公園で6組15名が参加して、外来生物であるザリガニの生息調査を行いました。
- ・市民団体と協定を結び、里山再生事業の取り組みを進めています。2021年度は、新たに2つの団体と協定を結び、未利用の山林の活用を図ることができました。
- ・下水道用地アダプト活動（自主的な美化等の活動）を行っている市民団体により、市内の調整池の清掃と生きもの調査が実施されています。

※ [施策実施状況一覧19ページ～20ページ](#)を参照

2022年度に向けた課題と対策

- ・多様な主体との協働・連携を推進するために、市内で活動する環境活動団体についての情報収集を行うとともに、定期的な情報交換を行うなど、環境活動団体間のつながりを確保することが必要です。
- ・今後も環境活動団体と情報交換を行える機会をつくり、協働・連携の推進を図ります。

基本方針 4 保全と持続可能な利用 ～守る・活用する～

＜目標＞ 町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築します。

【施策】

4-1 まとまりのある緑や多様な自然の保全

- ① 里山環境の保全・再生

4-2 水辺環境の保全

- ① 河川・水路の良好な水質の保全
- ② 河川・水路の改修時における生物多様性への配慮

4-3 生きものに配慮したまちづくり事業の推進

- ① 公園・緑地における取り組みの推進
- ② 道路における取り組みの推進
- ③ 開発事業における生きものや自然への配慮の検討

4-4 生きものの生育・生息状況の継続的な把握

- ① 生きものの現状把握

4-5 外来種等による被害の防止

- ① 外来種に関する情報発信
- ② 外来種の防除

4-6 生きものや自然に親しめる場づくり

- ① 生きものや自然に親しめるイベントの実施
- ② 生きものや自然にふれあえる場づくり

4-7 農地の活用

- ① 農業の活性化支援
- ② 生きものや自然にやさしい農業の推進
- ③ 耕作放棄地の活用

4-8 生物資源の利用等の推進

- ① 生物資源の利用の推進

2021年度の成果

- ・外来種であるアライグマ・ハクビシンについて、防除事業を実施し、生態系の保全を行いました。
- ・市有の里山において、アレチウリの駆除を実施し、生きものの生育・生育環境を守ることができました。
- ・緑地や街路樹等の管理をすることで、生きものの生育・生息環境を維持することができています。
- ・小学校でビオトープの出前授業を実施しました。身近な生きものの生息場所について学習する機会を提供することができました。
- ・米作り体験をすることで、身近な自然に親しみ、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを体験していただくことができました。
- ・市内小学校42校の学校給食で、まち☆ベジ給食を2回実施しました。

※ 施策実施状況一覧21ページ～27ページを参照

2022年度に向けた課題と対策

- ・今後も、市民が生物多様性の恵みをさらに実感できる取り組みを行っていく必要があります。
- ・多くの方に生物多様性の重要性に気付いていただけるような取り組み、そして生物多様性保全に取り組みやすい仕組みづくりを進めていきます。

重点プロジェクト①

生物多様性情報拠点（生物多様性センター）機能の構築・充実

町田市の生物多様性の取り組みの検討の場、情報や資料の収集・発信の拠点をつくります。

2021年度の成果

- ・市内全域を対象に、まちピカ町田くん（スマートフォン写真通報アプリ）を使った市民協働の生きもの調査を行い、投稿された生きものの写真を定期的に市ホームページに掲載し、町田市内の生きものの魅力を発信しました。また、投稿写真をまとめ「まちだ生きものアルバム」を作成し、市ホームページで閲覧できるようにしました。
- また、投稿写真は市ホームページで公開するだけでなく、生きものクイズの動画、まちだ生きものアルバム、などに掲載し、町田の生きものとして紹介しました。
- ・市内5カ所の「生きもの情報コーナー」を活用して、生きもの探しマップなどの刊行物を配布するなど生きもの情報を発信しました。

2022年度に向けた課題と対策

- ・今後も継続して投稿してもらうための工夫が必要です。
- ・「生きもの情報コーナー」を活用して、より多くの方に町田市の生きものに関心を持っていただく工夫をしていきます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	内容・方向性の検討	ホームページ上に生物多様性のページ作成	ホームページ上の情報発信	拠点機能の整備 内容・方向性の検討	→	→	拠点機能の充実
			内容・方向性の検証				
					アプリの活用	→	

《定量評価の視点》

指標：市民アンケート調査結果による生きものに関心のある市民の割合

達成目標：40.0%

年度	基準年（2013）	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
割合	31.3%	27.8%	37.4%	37.5%	33.7%	34.4%	27.8%

重点プロジェクト②

多様な主体の交流の場づくり

多様な主体の交流の場である「生物多様性フォーラム」を定期的に開催します。

2021年度の成果

- ・2021年12月に町田生きもの共生フォーラムを開催し、和光大学の堂前 雅史教授に「市民活動と生物多様性」の講師と、「市内活動団体の活動紹介」のファシリテーターをしていただきました。
- ・町田生きもの共生フォーラムの「市内活動団体の活動紹介」では、参加団体の活動内容の情報共有していただくことができました。

2022年度に向けた課題と対策

- ・今後も、市内活動団体間の交流を推進する取り組みが必要です。
- ・2021年度の町田生きもの共生フォーラムにおいて、市内活動団体との情報交換でいただいたことを踏まえて、今後も団体間の交流が進むような意見交換の場とする工夫をしていきます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	検討・プレフォーラムの実施	「生物多様性フォーラム」					
		第一回「未来に伝えよう！町田の生物多様性」	第二回「里山を楽しく生かす」	第三回「町田の哺乳類・野鳥」	第四回「秋の七草で広げる身近な自然」	第五回「都会に出てきた野生動物」、「鶴見川の生きもの」	第六回「市民活動と生物多様性」、「市内活動団体の活動紹介」

《定量評価の視点》

指標：多様な主体による交流の場の提供回数

達成目標：6回（累計）

年度	基準年（2013）	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
回数	—	1	1	1	1	1	1

重点プロジェクト③

里山の生物資源利用促進の取り組みの推進

手入れがされなくなって植生が単調になった雑木林の手入れを行いやすくするため、伐採木等の利用方法などを考えていきます。また、里山の保全や手入れなどを行っている市民などと協働して行える取り組みを検討し、実施します。

2021年度の成果

- ・北部丘陵において、5つの団体や個人と協定を結び、山林等約66,000㎡の活用や保全を図りました。
- ・相原中央公園で、里山の生物資源を利用したイベントを実施しました。
- ・カシノナガキクイムシによる「ナラ枯れ」の被害が発生したため、活動団体での意見交換会を開催しました。

2022年度に向けた課題と対策

- ・活動団体への活動支援だけでなく、団体間の情報共有を図って行く必要があります。
- ・関係する環境活動団体等と協働し、里山資源の活用や保全を進めていきます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	方向性・取り組み内容の検討	→	取り組みの試験的实施	→	取り組みの本格的実施	・山林バンクモデル2ヶ所実施 ・里山イベント1回実施 ・生きもの情報コーナー5ヶ所設置	・山林バンクモデル2ヶ所実施 ・里山イベント1回実施

《評価の視点》

指標：里山の生物資源利用促進の取り組みの実施

達成目標：取り組みの推進

年度	基準年(2013)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
内容	—	検討	試験的实施	試験的实施	本格実施	本格実施	本格実施

重点プロジェクト④

市民協働による生きもの調査の実施

多くの方に生きもの調査に参加していただき、市内の生きもの状況を知る機会をつくれます。

2021年度の成果

- ・通報アプリ「まちピカ町田くん」を使い、年間を通じて、生きもの写真1,496件の投稿を受け付けました。9月には「生きものとビオトープ探しキャンペーン」を行いました。投稿写真は市ホームページで公開するだけでなく、生きものクイズの動画、まちだ生きものアルバム、などに掲載し、町田の生きものとして紹介いたしました。
- ・子ども向け水辺の生きもの調査として、薬師池公園で外来生物であるアメリカザリガニの生息調査を行い、6組15名に参加していただきました。

2022年度に向けた課題と対策

- ・今後も、多くの方に参加していただける工夫が必要です。
- ・多くの方に、身近な生きものに目を向けていただき、市内の生きもの生息状況を把握するために、市民協働の生きもの調査を工夫していきます。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	調査の実施、 調査内容・運営の改善			→	事業の検証、改善		
	セミの鳴き声調査				→	アプリの活用	→
	かいぼり生きもの調査	セミのぬけがら調査	ツバメの巣探し調査	水辺の生きもの調査	外来生物調査	外来生物調査	外来生物調査
	早春の生きもの調査						

《定量評価の視点》

指標：市民協働による生きもの調査への参加者数

達成目標：3500人（累計）

年度	基準年（2013・14）	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
年度人数	99・132	517	309	265	1,321	1,642	1,708
累計人数	—	803	1,112	1,377	2,698	4,340	6,048

重点プロジェクト⑤

ビオトープ作庭イベントの開催

まちぐるみでビオトープを作庭し、イベントを開催します。

2021年度の成果

- ・小学校でのビオトープ出前授業を3校8クラスで実施し、児童が学校のビオトープや周辺の環境や生物相について理解を深めました。新型コロナウイルス感染症対策で児童と接触ができない学校については、校庭やビオトープからオンラインで配信するなど、工夫をしながら授業を実施しました。
- ・アプリを使った市民協働の生きもの調査のキャンペーンは、生きものだけでなく、その生息環境（ビオトープ）にも目を向けていただくテーマで実施しました。

2022年度に向けた課題と対策

- ・2021年度末時点、イベント参加主体数が27件となっています。
- ・学校ビオトープを利用した出前授業は継続し、イベント型のビオトープ関連事業の実施を検討し、今後もビオトープについての普及啓発を行います。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
工程表	情報収集、「ビオトープ作庭イベント」の内容検討			普及啓発資料発行	普及啓発資料公開、配布		
				イベント開催 (年1回)			

《定量評価の視点》

指標：イベント参加主体数

達成目標：50

年度	基準年(2013)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
参加主体数		—	—	9	12	6	8
累計	—	—	—	9	21	27	35

(参考資料) 施策実施状況一覧 基本方針1 関連

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
1	1 ①	忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	市内5ヵ所の公園に設置している「生きもの情報コーナー」を活用して「町田の生きもの」の情報発信を行い、通報アプリをまとめて「まちだ生きものアルバム」を作成して市ホームページで閲覧ができるようしました。また、薬師池では生きもの調査を兼ねたザリガニ釣りイベントを実施して楽しみながら生きものに触れ合う場を設定いたしました。	環境・自然共生課
1	1 ①	忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	がにやら通信No.267号からNo.278号を発行し、約500部を館内で配布し、来園者に四季おりおりの情報を発信しました。観察会の予定等の情報も発信できました。	公園緑地課
1	1 ①	忠生がにやら自然館や小野路宿里山交流館等を活用した情報発信	小野路宿里山交流館土蔵において、奈良ばい谷戸展（2022年3月15日～3月26日）を開催し、小野路の自然に興味を持つ人に対して小野路の魅力を伝えることができました。	観光まちづくり課
1	1 ①	町田市の生物多様性に関する情報の普及啓発資料の作成	通報アプリを使った生きもの調査では、2021年1月から12月の投稿1,496件をまとめた「まちだ生きものアルバム」を市ホームページで閲覧ができるよういたしました。	環境・自然共生課
1	1 ①	外来種の飼育に関する情報の発信	市ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。また、様々な機会を通じて外来生物被害予防三原則を掲載した「まちだ生きもの探しマップ」を配布し、周知を行いました。	環境・自然共生課
1	1 ①	外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信	市ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。自治会・町内会のアライグマ・ハクビシン防除事業の3年間の事業の成果をまとめた「アライグマ・ハクビシンに気をつけましょう」という冊子を6月に自治会・町内会に配布してアライグマ・ハクビシン防除事業の周知をいたしました。	環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況		担当課名
1	1	① 登録文化財制度による市内の生きものの情報発信	2021年度中は文化財保護審議会において、他に議論しなければならない議題があったため、自然誌にかかる文化財登録は実施しませんでした。ただし、2021年度中に、全4回文化財保護審議会を実施いたしました。		生涯学習総務課
1	1	② 事業者向け普及啓発資料の作成	事業者向けコンテンツを継続して公開しました。市ホームページに環境省作成の「生物多様性と民間参画」や東京都作成の「生態系に配慮した緑化推進」を掲載して啓発を図りました。		環境・自然共生課
1	1	③ 生物多様性に関する資料・情報や環境保全活動等に関する情報を収集・発信する仕組みづくり	重点プロジェクト①参照 (P.7)		環境・自然共生課
1	1	④ 市民協働による生きもの調査の実施	重点プロジェクト④参照 (P.10)		環境・自然共生課
1	1	④ 町田市農業祭の開催	2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でキラリ☆まちだ祭が中止となり、11月に農業祭単独での開催となりました。感染症対策を講じながら、農産物品評会、農産物即売会、市内農業者等によるブース出店等を実施し、市内農業のPRや地産地消の促進ができました。		農業振興課
1	1	④ 町田エコフェスタ等環境イベントにおける生物多様性に関するイベントの実施	10月に開催した、環境教育展で町田の生きものに関するパネル展示を行いました。12月に、町田生きもの共生フォーラムを開催し、「市民活動と生物多様性」の講演と「市内活動団体の活動紹介」を実施しました。各イベントにおいて町田の生きもの情報を提供することができました。		環境・自然共生課
1	2	① 生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	9月に子ども向け外来生物学学習イベント「ザリガニを釣って水辺の生きものを知ろう」を実施し、6組15名の親子が参加しました。釣りの前に、ザリガニが水辺の生態系に与える影響の講義を交え、釣りを通して楽しみながら生きものに触れ合える機会と学びの場を提供できました。		環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
1	2 ①	生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	<p>【子どもセンターまあち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天体や星についての基礎知識を学ぶとともに、町田の中心市街地に位置するまあちからでも星が観察でき、夜空を見上げるきっかけづくりにつながりました。 <p>【子どもセンターただON】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の星空について学びました。高校生が自身の持っている知識を小学生に伝え、異年齢のコミュニケーションの場にもつながりました。 ・忠生公園にて、在来生物と外来生物について学びました。高校生が自身の持っている知識を小学生に伝え、異年齢のコミュニケーションの場にもつながりました。 <p>【子どもセンターばあん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばあんの屋上から見える星座というテーマで、昨年度は春の星座を今年度は冬の星座を学び、実際の夜空との違いを知るきっかけとなりました。 <p>【子どもセンターぱお】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアから綿繰り機の説明を聞き、順番に綿と種の分離作業をすることで、コットンが出来上がる工程を知り、親子で貴重な体験ともらった種の栽培活動の成果が見られました。 <p>【子どもセンターつるっこ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに大好きなカブトムシを通して、生きものに興味を持つとともに、その環境についても学べる機会になりました。 	児童青少年課
1	2 ①	生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	<p>テント張り体験会（3回）、火おこし&焼き板体験会（4回）、森林体験塾（2回）等の事業を計15回実施しました。</p> <p>参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」が全体の86.4%を占めました。</p>	大地沢青少年センター

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
1	2①	生きものや自然をテーマとした、子どもたちが遊びながら学ぶことができる環境学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。 ドングリ植えと植樹を行うことによって、町田市の自然に関心をもち、町田市の魅力の一つととらえ、自然に親しみと愛着を持つ子どもを増やすことができました。	農業振興課
1	2①	野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	市内小学校3校でビオトープの出前授業を実施しました。 実施した学校からは、ビオトープの解説だけでなく、周辺の生きものとのつながりや生態系についての説明が好評でした。	環境・自然共生課
1	2①	野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	【各子どもセンター】 食事を伴う活動が含まれており、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、キャンプなどの宿泊を伴う活動及び長距離ウォーキングなどは、中止いたしました。	児童青少年課
1	2①	野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	テント張り体験会（3回）、火おこし&焼き板体験会（4回）、森林体験塾（2回）等の事業を計14回実施しました。 参加者に記入していただくアンケートを集計した結果、4段階中最高評価の回答「とても楽しかった」が全体の85.2%を占めました。	大地沢青少年センター
1	2①	野外において、子どもたちが生きものや自然にふれあいながら学ぶことができる体験学習の実施・推進	小山田小学校の児童を対象に、ドングリ植えと植樹を行いました。ドングリ植えと植樹を行うことによって、町田市の自然に関心をもち、町田市の魅力の一つととらえ、自然に親しみと愛着を持つ子どもを増やすことができました。	農業振興課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
1	2 ②	地域ボランティア等との交流による学校ビオトープの活用	<p>生活科や理科、総合の学習において、メダカや虫などの水辺の生きものの観察・飼育を行いました。</p> <p>地域の方々の協力を得ながら、ビオトープの整備を行うとともに、児童が学習等で活用しました。</p> <p>ビオトープの管理をし、生きものと触れ合うことを通して、自然の仕組みを学ぶとともに動植物への愛着の心を育てることができました。</p>	指導課
1	2 ②	学校における農業体験の推進	<p>・地域の農家や保護者、JA等の協力を得ながら、米や野菜を育てる活動を行いました。稲の生育から食にいたるまでの体験的な活動を通して、ものづくりを行う達成感を味わい、自己有用感を高めることができました。</p>	指導課
1	2 ②	生きものとふれあうことができる場づくり	<p>小中一貫ゆくのき学園においてヤギの飼育を行い、生きものと触れ合う場を維持しました。輪番で小屋の掃除やえさやりなどの世話をしたことにより、全児童がヤギにかかわることができました。生きものの命を守るために、分担して世話をすることによって、生きものに親しむことができました。</p>	指導課
1	2 ②	地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	<p>保全会の方に指導してもらい、共有林の歴史、手入れの仕方について学び、実際に、下草刈りや木の成長の測定の仕方、間伐の体験、どんぐりの苗植え活動を実施しました。林業体験等を通して、地域の自然を守るためには、必要な手立てがあることを知ることができました。</p>	指導課
1	2 ②	地域の自然を育むための苗木の育成、苗木植え	<p>小山田小学校の児童を対象に、どんぐり植えと植樹を行いました。どんぐり植えと植樹を行うことによって、町田市の自然に関心をもち、町田市の魅力の一つととらえ、自然に親しみと愛着を持つ子どもを増やすことができました。</p>	農業振興課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
1	2③	自然観察会の実施	<p>忠生公園で年間7回開催し、60名の参加者がありました。</p> <p>かしの木山自然公園で年間2回開催し、11名の参加者がありました。幼稚園児からご年配の方まで幅の広い参加者に自然観察を楽しんでいただきました。</p>	公園緑地課
1	2③	フットパスの普及促進	<p>①小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施しました。</p> <p>里山歩きのイベントを通じて、小野路の魅力を伝えることができました。</p> <p>②NPO法人と協力し、住宅街を歩くイベントを実施しました。</p> <p>子育て層をターゲットに、新たなイベントを実施することができました。</p>	観光まちづくり課

(参考資料) 施策実施状況一覧 基本方針2 関連

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況		担当課名
2	1	① 町田市の自然環境や生きものに詳しい人材の把握と活用	12月に、町田生きもの共生フォーラムを実施しました。 「市民活動と生物多様性」の講演と「市内活動団体の活動紹介」を実施し、市内活動団体との情報共有をすることができました。		環境・自然共生課
2	1	① 環境講座の実施	前期7回、後期8回の連続講座を実施しました。 講義、実習、見学などを取り交ぜて、土日に開催することで幅広い年齢層の参加がありました。連続講座の受講を通して、「今後もエコ活動に取り組みたい」という意見が多数あり、環境保全に対する意識の向上に繋がりました。実習や講義などの組み合わせにより、エコ活動と地球にやさしい社会についての理解を深めることができました。		生涯学習センター
2	1	① ネイチャーリーダー講座の実施	12月に、町田生きもの共生フォーラムにおいて、市ホームページで紹介している市内活動団体間で情報交換を行い、活動団体の方の考えなどを聞くことができ、今後の取り組みへの参考とすることができました。		環境・自然共生課
2	1	① 市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照 (P.10)		環境・自然共生課
2	1	② 援農者、新たな担い手の育成	2年間の研修を終え、第11期生が卒業しました。今後は市内の農の担い手として活躍することが期待されます。農業者の高齢化等に伴う農地の担い手不足という課題に対し、歯止めをかけるために、農の担い手を育成しました。		農業振興課
2	1	② 意欲のある農業者の支援	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、まち☆ベジ市等を定期開催し、多くの市民に町田産農産物のPRをすることに成功しました。また、農業者にとっても、対面販売することで、生産意欲の向上につながりました。		農業振興課

(参考資料) 施策実施状況一覧 基本方針3 関連

基本方針目標		施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
3	1	①	市民協働による生物多様性保全に関する取り組みの実施	芹ヶ谷公園に設置してあるポケふたの1周年にちなんで、ポケモンに似た生きもの投稿を募集するイベントを開催しました。また、9月に生きものとピオトープ探しキャンペーンを実施しました。期間中277件の投稿をいただきました。通年の投稿へのきっかけづくりにもなり、年度合計1,496件の投稿につながりました。	環境・自然共生課
3	1	①	市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照 (P.10)	環境・自然共生課
3	1	②	生物多様性に関する情報の提供	「まちだ生きものアルバム」を、町田生きもの共生フォーラムで展示したり、市ホームページで紹介し、市民活動の動機付けを図り、支援を充実させました。	環境・自然共生課
3	1	②	市民による河川の維持管理の支援	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「境川クリーンアップ作戦」が中止となったため、「境川クリーンアップ作戦」広報はいたしませんでした。今後の当該活動が実施される際には引き続き広報を行い、町田市の生き物の生息環境保全に貢献していきます。	下水道経営総務課
3	1	②	市民による水路の維持管理の支援	アダプト事業を行っていただいている団体の支援（清掃後のごみの回収等）行いました。	下水道管理課
	1	③	市民協働での里山管理の仕組みの検討	市内の里山環境の持続可能な保全を目的に、幅広い主体との連携・協働による里山環境の場や資源の活用を推進し、里山における経済・社会・環境の新たな循環の構築を目指す「町田市里山環境活用保全計画」を策定しました。この計画において、「活動に参画する団地や企業・個人など。担い手の確保と支援」や「まちだの里山の戦略的な情報発信」を重点事業に位置付けました。	農業振興課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
3	1 ③	市民や市民団体が活動内容の発表や情報交換等の交流を行う場づくり	重点プロジェクト②参照 (P.8)	環境・自然共生課
3	2 ①	大学や事業者との連携による啓発事業や調査等の実施	大学で授業を行う機会や学生インターンシップを受け入れる機会を活用し、通報アプリを使った生きもの調査で集まった情報を紹介し、よりたくさんの周知を図ることができました、外部団体との協同実施には至りませんでした。	環境・自然共生課

(参考資料) 施策実施状況一覧 基本方針4 関連

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
4	1	① 里山環境再生事業の実施	<p>鶴見川源流域及び奈良ばい谷戸で保全・活用を行う団体を公募し協定を締結しました。</p> <p>カントリーヘッジの設置や植樹会などの環境再生事業を実施しました。</p> <p>NPO法人と協働で環境再生事業を行うことによって、町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築することができました。</p>	農業振興課
4	1	① 町田市ふるさとの森の保全	<p>都市計画緑地である三輪緑地の10,138㎡の用地を取得しました。市有地化することにより、将来にわたって貴重な緑地が保全できます。</p>	公園緑地課
4	1	① 里山環境再生事業の新規実施地域の検討	<p>市内の里山環境の持続可能な保全を目的に、幅広い主体との連携・協働による里山環境の場や資源の活用を推進し、里山における経済・社会・環境の新たな循環の構築を目指す「町田市里山環境活用保全計画」を策定しました。</p> <p>町田市里山環境活用保全計画において、「山林と農地の再生と活用」を重点事業に位置付けました。</p>	農業振興課
4	1	① 里山環境再生事業の新規実施地域の検討	<p>現地調査や市民要望に応じて草刈りや剪定等を行い市内の緑地を保全しました。草刈りや樹木剪定を適切に行うことによって、市内の緑地が保全され、また動植物にとっても生息・生育しやすい状況に保つことができました。</p>	公園緑地課
4	2	① 下水処理における適正な水処理	<p>2つの下水処理場において、適正な水処理運転により良好な処理水質を得ました。放流先河川の良好な水質の保全に寄与しました。</p>	水再生センター
4	2	① 市民による河川の清掃活動の推進【再掲】	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「境川クリーンアップ作戦」が中止となったため、「境川クリーンアップ作戦」広報はいたしませんでした。今後の当該活動が実施される際には引き続き広報を行い、町田市の生き物の生息環境保全に貢献していきます。</p>	下水道経営総務課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況		担当課名
4	2	① 市民による水路の維持管理の支援	アアダプト事業を行っていただいている団体の支援（清掃後のごみの回収等）行いました。		下水道管理課
4	2	② 雨水幹線整備時における水辺環境への配慮	2021年度は、水辺環境に配慮できる雨水幹線整備がありませんでした。		下水道整備課
4	3	① 街区公園整備事業	取組はありません。		公園緑地課
4	3	① 公園・緑地の整備・管理における生物多様性保全の推進	現地調査や市民要望に応じて、草刈や樹木剪定を行い良好な状況に維持しました。公園緑地について、草刈や樹木剪定を実施した結果、良好な状況で保全することができました。		公園緑地課
4	3	② 緑の連続性に配慮した街路樹の維持・管理	枯損などにより欠損した植樹樹等に、計508株の低木を植栽し、連続した緑の確保を行いました。緑の繋がりを確保し、都市部における生きもののささやかな生息域の確保と、道路上にうおいをもたらす緑化につなげることができました。		道路維持課
4	3	③ 開発事業実施の際の生物多様性への影響に対する配慮の検討	市ホームページに環境省作成の「生物多様性と民間参画」や東京都作成の「生態系に配慮した緑化推進」を掲載して事業者の啓発を図りました。		環境・自然共生課、関係各課
4	4	① 市内の生きものの生育・生息状況の把握	調査を通年行い、9月1日～9月30日まで生きものとビオトープ探しキャンペーンを実施しました。定期的に市ホームページに掲載して、新着情報として紹介しました。また、2021年12月までに集まった情報をまとめた生きものアルバムを作成しました。市ホームページで閲覧可能となっています。その他にも、まちだのいきものクイズや環境情報紙エコまちだで紹介するなど、様々な機会です町田の生きものとして紹介しています。		環境・自然共生課
4	4	① 市民協働による生きもの調査の実施【再掲】	重点プロジェクト④参照（P.8）		環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
4	4 ①	生物多様性の現状を把握するための環境指標種*の検討	通報アプリを使った生きもの調査では、指標となるような生きものを調査対象にして、情報収集します。調査対象以外でも興味深い情報が数多く届いて情報の蓄積も進んでいるので、2021年度は野草の調査対象を一つ増やして実施しました。	環境・自然共生課
4	5 ①	外来種の飼育に関する情報の発信【再掲】	市ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。また、様々な機会を通じて、外来生物被害予防三原則を掲載した「まちだ生きもの探しマップ」を配布し、周知を行いました。定着している種については、適切な取り扱い方法、駆除方法を案内しています。 定着していない種については、必要に応じて現場調査を行い、状況確認を行っています。	環境・自然共生課
4	5 ①	外来種の取り扱い・ルールに関する情報の発信【再掲】	市ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。アライグマ・ハクビシン防除事業の3年間の事業成果をまとめた「アライグマ・ハクビシンに気をつけましょう」という冊子を6月に自治会・町内会に配布してアライグマ・ハクビシン防除事業の周知をいたしました。	環境・自然共生課
4	5 ②	生態系に被害を及ぼす特定外来生物アレチウリの駆除	定期巡回を行い、アレチウリを発見したときは速やかに駆除しました。NPO法人と協働でアレチウリの駆除を行うことによって、町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築することができました。	農業振興課
4	5 ②	農業生産に被害を及ぼす特定外来生物アライグマの駆除	町田市農業協同組合へ小動物捕獲の委託を行い、特定外来生物（アライグマ・ハクビシン）の駆除を推進しました。駆除により、農作物被害を一定程度抑えることができました。	農業振興課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
4	5②	外来種への対応の検討	市ホームページで外来生物に関する情報発信を継続しました。アライグマ・ハクビシン防除事業の3年間の事業成果をまとめた「アライグマ・ハクビシンに気をつけましょう」という冊子を6月に自治会・町内会に配布してアライグマ・ハクビシン防除事業の周知をいたしました。	環境・自然共生課
4	6①	農業体験の実施	市民公募を行い、奈良ばい谷戸にて米作り体験を実施しました。NPO法人と協働で米づくり体験を行うことによって、町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを体験していただくことができました。	農業振興課
4	6①	農業体験の実施	市民公募を行い、14組33名の応募があり、田植え、草取り、稲刈り、収穫祭の米づくり体験を実施しました。米づくりを体験することによって、身近な自然を楽しみ、親しんでもらうことができました。	農業振興課
4	6①	生きものや自然に親しめるイベント等の実施	<p>鶴見川源流保水の森において、散策・ヤブカンゾウ苗植え体験を実施することによって、町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築することができました。</p> <p>奈良ばい谷戸において、サツマイモ掘を実施することによって、町田市の生きものやその生育・生息環境を守り、生物多様性の恵みを継続的に利用する仕組みを構築することができました。</p> <p>奈良ばい谷戸において、タケノコ掘を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。</p>	農業振興課

基本方針 目標	施策 番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当 課名
4	6 ①	生きものや自然に親しめるイベント等の実施	忠生公園自然観察センター・かしの木山自然公園定例自然観察会については、広報まちだに掲載、また両公園の掲示板にも掲載しPRをしました。毎回観察会ボランティアの協力もあり多くの参加者に楽しんでいただきました。	公園緑地課
4	6 ①	生きものや自然に親しめるイベント等の実施	忠生公園自然観察センター・かしの木山自然公園定例自然観察会については、広報まちだに掲載、また両公園の掲示板にも掲載しPRをしました。毎回観察会ボランティアの協力もあり多くの参加者に楽しんでいただきました。	公園緑地課
4	6 ②	まちだフットパスの利用促進【再掲】	①小野路宿里山交流館のイベントとして、里山歩きを実施しました。里山歩きのイベントを通じて、小野路の魅力を伝えることができました。 ②NPO法人と協力し、住宅街を歩くイベントを実施しました。子育て層をターゲットに、新たなイベントを実施することができました。	観光まちづくり課
4	6 ②	ビオトープ作庭イベントの開催	重点プロジェクト⑤参照 (P.11)	環境・自然共生課
4	6 ②	生産緑地の保全・活用	2021年3月に推薦した10件17筆5,709㎡の農地のうち、申請書が提出された9件11筆4,376㎡が2022年1月1日に生産緑地指定されました。 2022年1月にも生産緑地追加指定の募集を行い、11件22筆6,673.5㎡の応募があり、3月にその全てにあたる11件22筆6,673.5㎡を生産緑地として推薦をしました。	農業振興課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況		担当課名
4	7	① 町田産農作物の学校給食での活用	市内小学校 42 校の学校給食で、まち☆ベジ給食を 2 回実施しました。まち☆ベジ給食で町田市産の米・人参・白菜・大根・小松菜・ねぎを使用することにより、地場産野菜のPRを促進するとともに、児童や保護者に地産地消についての周知を図りました。		保健給食課
4	7	① 町田産農作物の学校給食での活用	小学校給食における町田産農産物活用を促進するため、納品した農家に対し、補助金を交付しました。継続して出荷農家の支援をすることで、2021年度は新たに 2 人の農家が出荷農家として登録しました。		農業振興課
4	7	② 減農薬・減化学肥料農法に取り組む農業経営者の支援	エコ農産物認証取得者およびエコファーマーに対する堆肥流通促進事業補助金を拡大しました。農業者に対して、窓口にてPRしました。PRしたことにより、農業者に対し、エコ農産物に対する普及啓発することができました。		農業振興課
4	7	② 田んぼの保全推進	市内の里山環境の持続可能な保全を目的に、幅広い主体との連携・協働による里山環境の場や資源の活用を推進し、里山における経済・社会・環境の新たな循環の構築を目指す「町田市里山環境活用保全計画」を策定しました。		農業振興課
4	7	③ 遊休農地のあっせん制度	農地利用集積円滑化事業を継続実施し、遊休農地の有効活用を図り、2022年1月にバンク公開を行い、農地を新たな担い手とマッチングすることで、遊休農地解消に繋げました。		農業振興課
4	8	① 生物資源利用促進の取り組みの実施	重点プロジェクト③参照 (P.9)		農業振興課、公園緑地課、環境・自然共生課

基本方針目標	施策番号	具体的な取り組み	2021年度実施状況	担当課名
4	8 ①	木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	<p>町田市花壇コンクール参加団体への剪定枝たい肥の無料配布を行い、剪定枝たい肥のPRをしました。</p> <p>(PR実施期間)</p> <p>①2021年6月22日～7月8日</p> <p>②2021年11月20日～12月3日</p> <p>剪定枝たい肥を花壇コンクールで活用いただきました。また、日頃から市民の方に使って頂けるよう、剪定枝たい肥に関するパネルの展示を行いました。</p>	資源循環課
4	8 ①	木の枝や落ち葉の堆肥としての利用・推進、堆肥流通促進制度の推進	<p>エコ農産物認証取得者およびエコファーマーに対する堆肥流通促進事業補助金を拡大しました。農業者に対して、窓口にてPRしました。</p> <p>畜ふん尿の資源循環を促進することができました。</p>	農業振興課